



BERNINA⁺

“Welcome to
the BERNINA
family”

H.P. ウルチ
代表取締役社長

ベルニナミシン株式会社

このたびは、ベルニナミシンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。私共はミシン作り100年を超える歴史を通じて、お客様一人一人に満足していただくことを最大の目標にしてまいりましたが、今現在も尚、スイスの優れた伝統技術、未来志向のソーイング・テクノロジー、そして他に類を見ないほど行き届いたサービスをお届けすることを常に心がけています。

今回お届けするベルニナ・アクティバ210は、お客様皆様の個々のニーズに対応できる、かつてない、新しいタイプのミシンです。

いろいろなミシン用付属品に加え、実用的でオリジナルなアイデアを満載して発行されるベルニナのソーイングマガジンなども、必ずや皆様にご満足いただけるものと確信しております。

それでは、ベルニナミシンでクリエイティブなソーイングを、心ゆくまでお楽しみ下さい。

BERNINA International AG. CH-8266 Steckborn/Switzerland

2 安全にご使用いただくために

安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な遵守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

また、ご使用前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。

当製品をご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。



感電、火災の恐れがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1. プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用后、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。
3. 電球の交換時には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。電球は12V 5Wの純正品をご使用下さい。



感電、火災、けがの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. おもちゃとして絶対にご使用にならないで下さい。また、小さなお子様の近くでのご使用時は、特別の注意をお願い致します。
2. この説明書に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする付属品のみをご使用下さい。
3. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
 - ・ ミシンやフットコントローラーのコードやプラグに傷があるとき。
 - ・ ミシンが正常に作動しないとき。
 - ・ 落としたり、損傷したとき。
 - ・ 水の中に落としたとき。

このような場合には、お近くのお買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。

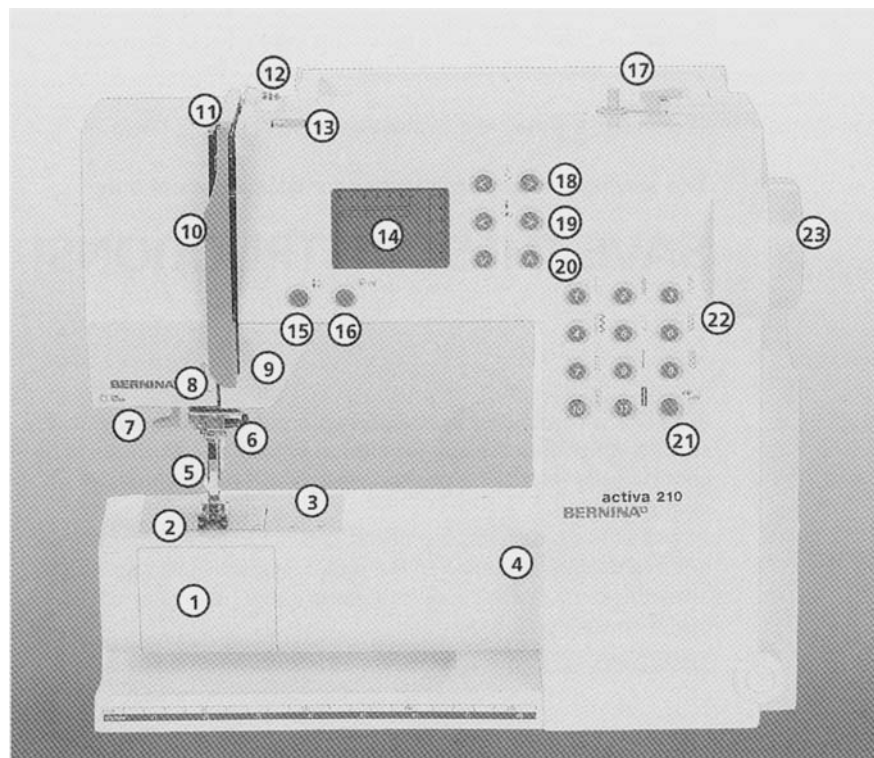
4. ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターの過熱の原因となります。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。
6. 常に当製品専用の針板をご使用下さい。まちがった針板のご使用は、針折れを起こします。
7. 曲がった針は使用しないで下さい。

8. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
9. 糸、針、ポビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切ってください。
10. ミシンカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
11. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
12. 戸外では使用しないで下さい。
13. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。
14. プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシン本体の電源を切ってください。
15. プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
16. 以上の使用方法を遵守しないために生じた損害に対しては、いかなる場合も当社は責任を負いかねますので、ご了承下さい。
17. このコンピュータミシンは二重絶縁構造になっています。部品の交換においては必ず正規部品をお使い下さい。

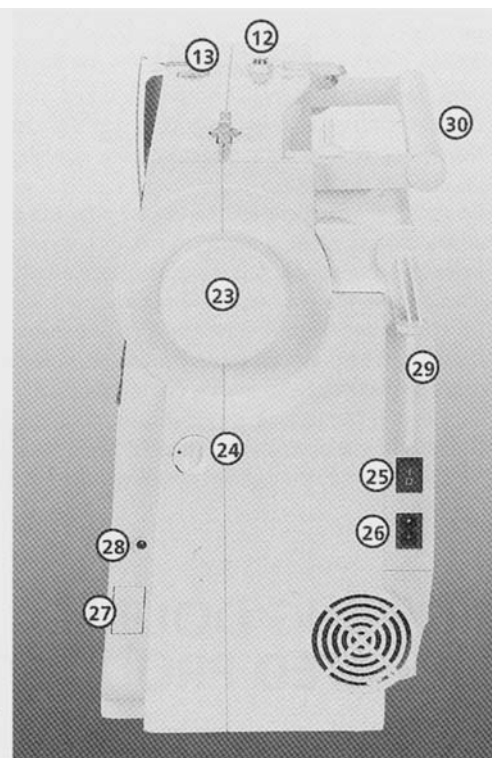
説明書の保管

当製品を安全にご使用いただくために、この説明書は大切に保管して下さい。

各部の名称

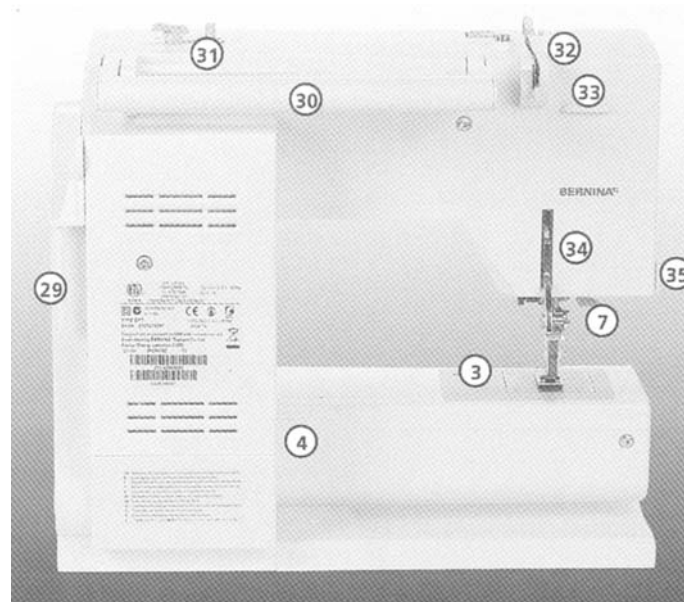


ミシン前面



ミシン右側面

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 釜カバー | 20. 送り調節ボタン |
| 2. 針板 | 21. クリヤー・削除ボタン |
| 3. アタッチメント取り付け用ねじ穴 | 22. 模様選択ボタン |
| 4. ソーイングテーブル取り付け用突起 | 23. はずみ車 |
| 5. 押え金 | 24. 送りバランス微調節つまみ |
| 6. 針止め | 25. 電源スイッチ |
| 7. ビルトイン糸通し機 | 26. 電源プラグ差し込み |
| 8. 糸ガイド | 27. 送り歯ドロップ操作ボタン |
| 9. 針元返し縫いボタン | 28. フットコントローラー用コンセント差込口 |
| 10. 天びん安全カバー | 29. 垂直糸立て棒 (折りたたみ式) |
| 11. 上糸案内 | 30. キャリングハンドル |
| 12. 下糸巻き糸案内 | 31. 糸立て棒 (水平) |
| 13. ダイヤルテンション | 32. 後部糸案内 |
| 14. 液晶画面 | 33. アクセサリーボックス取り付け用フック |
| 15. 針停止位置選択ボタン | 34. 押え上げレバー |
| 16. 1/2スピードボタン | 35. 糸切り |
| 17. 自動下糸巻き装置、糸切り | |
| 18. 振り幅調節ボタン | |
| 19. 針基線選択ボタン | |



ミシン背面

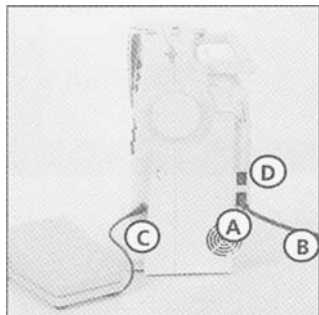
アクセサリ



標準アクセサリ

- ・アクセサリポーチ
- ・ボビン3個(1個はミシンに装着)
- ・押え取り付けシャンクと押えソール4種類
- ・標準針セット
- ・シームリッパー
- ・ブラシ
- ・糸こまカバー3種類
- ・糸こまクッション
- ・オイル
- ・使用説明書
- ・フットコントローラー
- ・電源コード
- ・製品保証書

電源コード



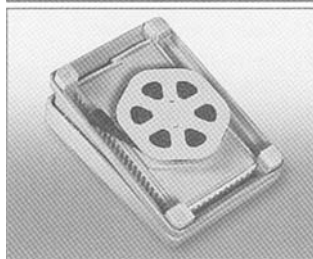
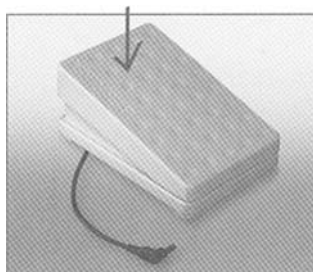
電源コード

- ・プラグAをミシンに接続し、
- ・プラグBを電源に差し込みます。

フットコントローラー用コード

- ・プラグCをミシンに接続します。

フットコントローラー



フットコントローラーは、縫う速度を調節します。ペダルを踏んで速度を調節します。
*フットコントローラーは国により仕様が異なります。

電源コードを収納する

- ・フットコントローラーの裏側に巻き取り、
- ・プラグは、波形隙間に差し込みます。

ご使用には：

- ・電源コードを巻き取り部から取り出して使います。



「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

電源スイッチ

電源スイッチは、ミシンのはずみ車の側にあります。

- 1 電源がオンです。
- 0 電源がオフです。

ソーイングランプは、電源スイッチのオン・オフで点灯・消灯します。

標準スナップオン式押え金



押え取り付け用
シャンク
スナップオンタ
イプソール用



1 標準ジグザ
グ押え
全ての実用縫い
に



3 ボタンホー
ル押え
ボタンホール縫
いに



4 ファスナー
押え
ファスナー付け
に



5 まつり縫い
押え
まつり縫いや
エッジ縫いに

別売りオプション押えソール



2 オーバーロ
ック押え
オーバーロック、
ヘム縫い、エッ
ジ縫い、幅の狭
いサテンステッ
チなどに

別売りオプション押え金



9 ダーニング
押え



10 エッジガイ
ド押え



20 オープン刺
しゅう押え



37 パッチワー
ク押え (6mm
縫い代)



50 ウォーキン
グ押え



68 ラフラー

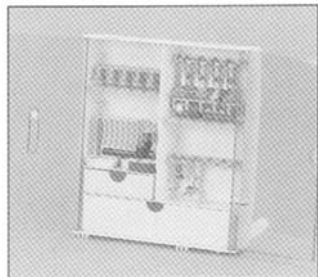


43 フリーモー
ションカウチ
ング押え



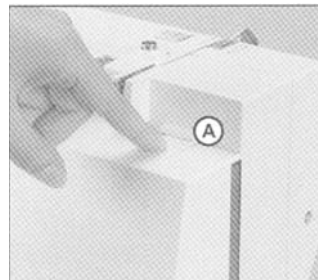
ニードルパンチ
セット

アクセサリボックス



スタンド型アクセサリボックス

- ・ A の部分を押えながらアクセサリボックスをミシンから取り外します。
- ・ 後ろ側下部の折りたたみ式脚を開きます

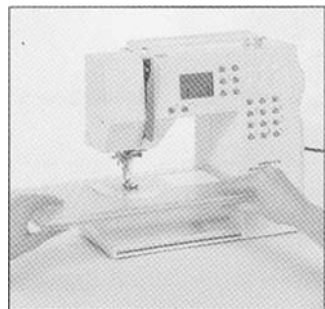


アクセサリボックスをミシンに取り付ける

- ・ まずドアーを閉じます。
- ・ アクセサリボックスの折りたたみ式脚を収納します。
- ・ 押え上げレバーを下げます。
- ・ ミシンの後ろから押え上げレバーをボックスの溝に合わせて装着します。
- ・ A のホルダー部にカチッと はめ込みます。

ソーイングテーブル

(日本仕様では標準装備)



作業スペースを広げます

取り付け方

- ・ 針と押え金を上げます。
- ・ フリーアームにそって、強く押し込んで固定します。

取り外し方

- ・ 針と押え金を上げて、
- ・ 左方向に強く引いて、
- ・ 取り外します。

定規

テーブル上の定規の0は、直線縫いで針基線が中央を基準としています。

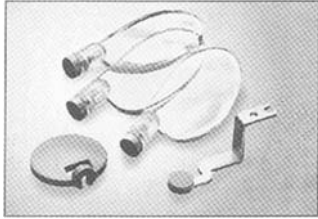
取り外し方

- ・ 指で押さええている部分を押し付けてアクセサリボックスを引くように外します。

布ガイドを使う

- ・ テーブルの手前裏側の溝に沿って、右又は左方向からスライドさせて差し込みます。
- ・ 布ガイドを使うと、テーブルの幅いっぱい布をガイドすることができます。
- ・ テーブル取り付け、又は取り外し時に必要ならば押え金(220型では押えシャンク)も外します。

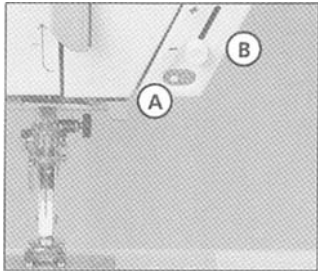
ソーイングレンズセット



ソーイングレンズ(オプション)
 ・ソーイングレンズは針目を大きく映し出し、大変便利です。

ご注意：
 けがなどの防止のため、ソーイングレンズをお使いにならない時は必ずレンズホルダーのカバーを取り付けて置いてください。

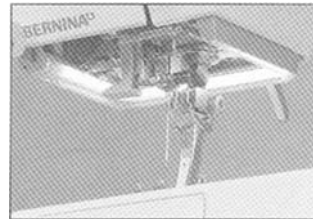
手元スタート・ストップ装置 (ディーラーオプション)



ご注意：
 フットコントローラーが接続されている場合は、手元スタート・ストップ装置は作動しません。

手元スタート・ストップ装置は指先でミシンをスタート、ストップ、そしてスピードの調節を可能にします。
 ・ボタンAを押すとスタートします。
 ・Bのボタンをスライドさせて最高スピードを調節します。
 ・再度ボタンAを押すと止まります。

蛍光灯ソーイングライト (ディーラーオプション)



蛍光灯ソーイングライト(国によりオプション)

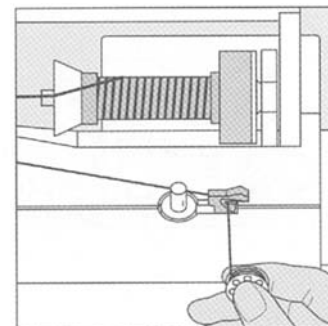
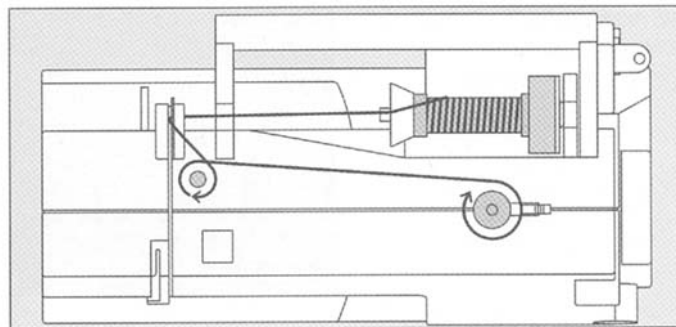
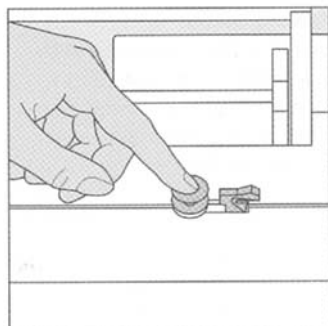
・インバーター式蛍光灯ソーイングライトは、目に優しい光で明るく手元を照らします。

ご注意：
 蛍光灯ソーイングライトの交換はベルニナ正規販売代理店でのみお取り扱いしております。



「安全にご使用いただくために」をご一読下さい。

下糸を巻く



下糸を巻く

- 電源スイッチをオンにします。
- 空のボビンを糸巻き軸にセットします。

- 糸をまず下糸巻き糸案内に、時計回りにひと巻きし、空のボビンに数回巻きつけます。
- ボビン押えをボビン側に倒します。
- フットコントローラーを踏み込みます。
- ボビンが一杯になれば、モーターは自動的に止まります。
- ボビンを外します。

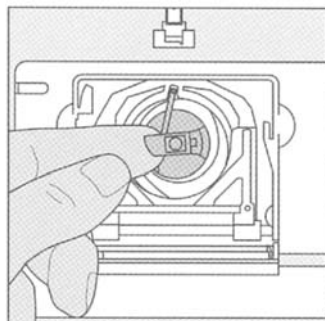
ご注意：

折りたたみ式の垂直糸立て棒（13ページ参照）を使って糸巻きをする時はスピードを抑え気味にしてください。

糸切り

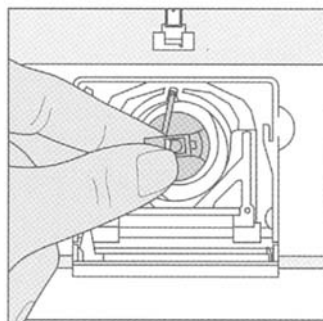
- 下糸巻き糸切りで糸を切ります。

ポビンケース



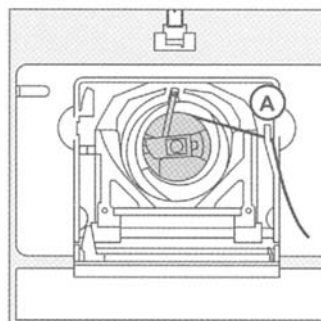
ポビンケースを取り出す

- ・針を上げ、
- ・電源をオフにします。
- ・釜カバーを開け、
- ・ポビンケースの爪の部分を左手でつまんで、
- ・取り出します。



ポビンケースを装着する

- ・爪の部分を左手でつまみ、
- ・つのを上に向けて、
- ・釜に差し込みます。
- ・カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ・釜カバーを閉めます。



下糸カッターで糸を切る

- ・ポビンケースを装着したら、
- ・糸切りAに、余分の糸を当てて切ります。
- ・釜カバーを閉じます。

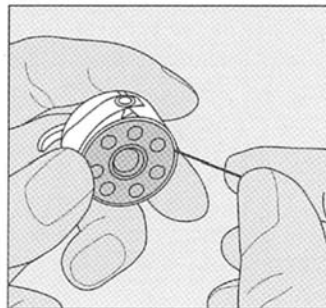
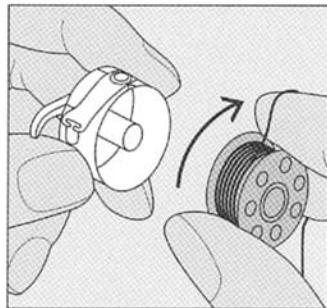
メモ：

下糸を持ち上げる必要なく、最適な下糸の長さで縫い始められます。



「安全にご使用いただくために」の項をご参照下さい。

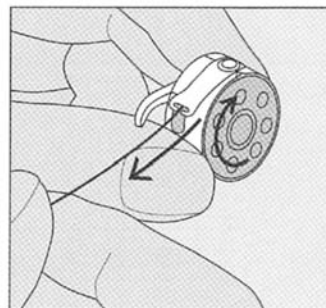
ポビンをセットする



糸の巻き方向が時計回りになるように、注意してポビンを入れます。

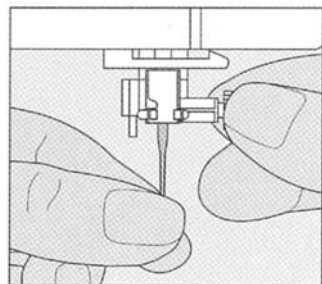


糸を時計と反対方向に引きながら切り溝の中に入れ、



糸がバネの下を通して、だ円形の窓から出てくるように通します。糸の端を引っ張ると、ポビンが時計回りに回ることを確かめて下さい。

針の交換



針を取り外す

- 針を上げ、
- 電源をオフしてから、
- 押えを外します。
- 指先でネジを緩め、
- 針を下に引いて外します。

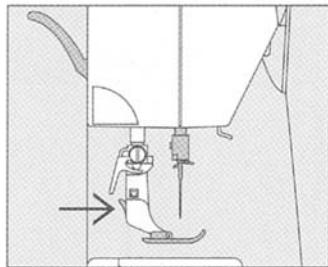
針を取り付ける

- 針の平らな側を後ろに持ち、
- 取り付け穴に針が止まるまで差し込んで、
- 指先でネジをしっかりと締めます。



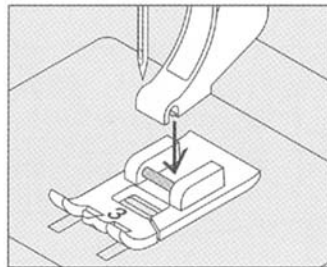
「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

押え金を交換する



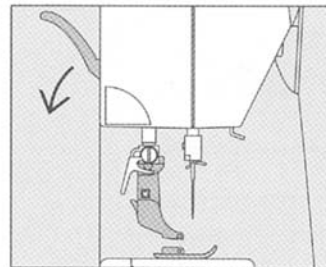
押え金を取り外す

- ・針と押え金を上げます。
- ・電源をオフにします。
- ・シャンク上の矢印のボタンを押して、押え部分を取り外します。



押え金を取り付ける

- ・押え部をシャンクの真下に置きます。

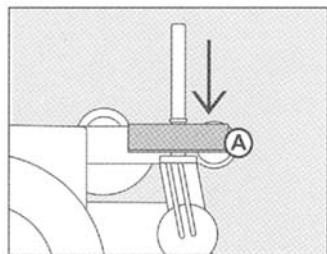
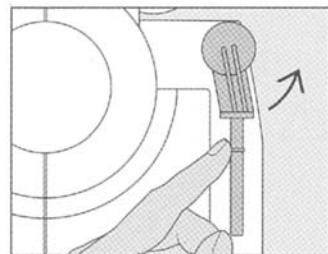


- ・押え止めレバーを下げます。



「安全にご使用いただくために」のページをご参照下さい。

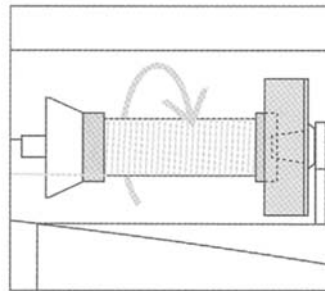
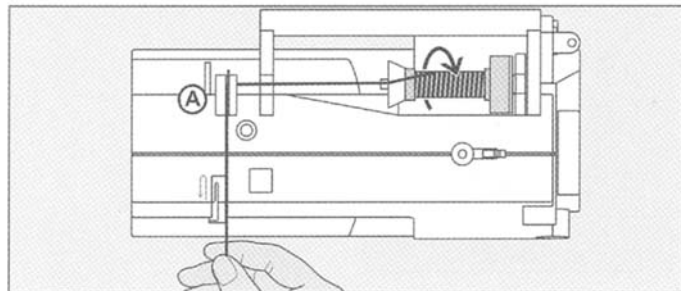
垂直糸立て棒を使う



折りたたみ式糸立て棒

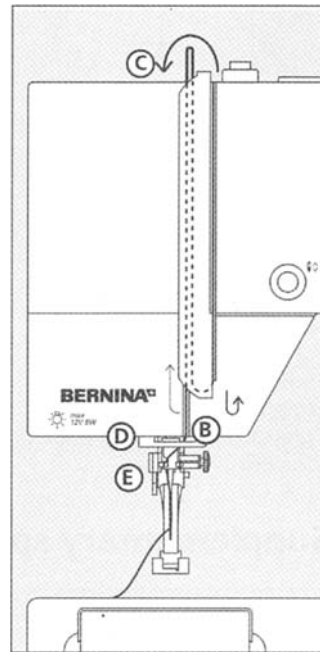
- ・ミシンの後ろ側右手についています。
- ・2本以上の糸を使ってソーイングするときに使います。
- ・くるりと後ろへ回転させてカチッと止まるまで起こします。
- ・大きな糸こまを使うときは糸こまクッションAを右図のようにセットします。

上糸をかける



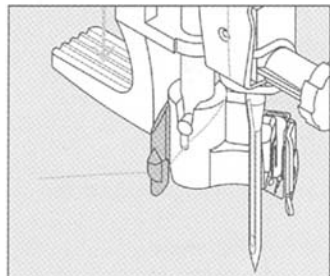
糸こまをセットする

- 針と押え金を上げて、
- 電源をオフにします。
- 糸立て棒にクッション付きの糸こま土台を取り付けます。
- 糸こまが時計方向に回るようにセットし、糸こま押えで固定します。
(糸こま押えのサイズは、糸こまの直径に合うものを選びます。)
- ミシン上部の糸案内Aに糸を通します。
- 次に、上糸テンションダイヤルに通して、
- 天びん安全カバーの右側に沿ってBから、
- Cの順に図のように糸を通し、
- 最後にD、Eそれぞれの糸掛けに通します。



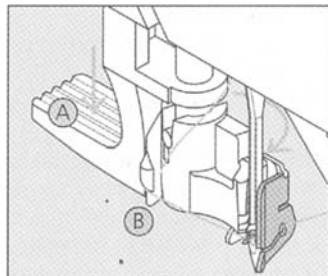
「安全にご使用いただく
ために」のページをご参
照下さい。

上糸通し器



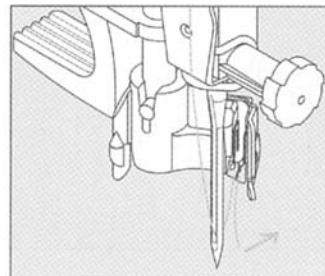
フックに糸を掛ける

- ・針を上で停止する。
- ・押え金を下げます。
- ・上糸を右手で持って、フックに図のように掛けます。



糸通し器のレバーを押し下げる

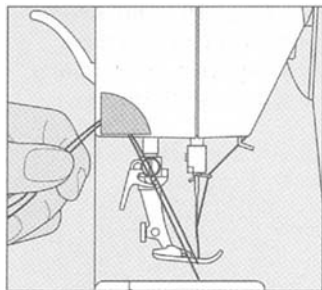
- ・レバーAを指で押し下げます。
- ・同時に糸をフックBの周りに巻きつけるようにします。



糸を針に押し付ける

- ・糸を矢印のように前方から後方へ、針に押し付けるようにして、
 - ・糸を針の右側に張り出してきたガイド板の溝にはめ込んで放します。
- 指をレバーから放す
- ・レバーから指を放します。

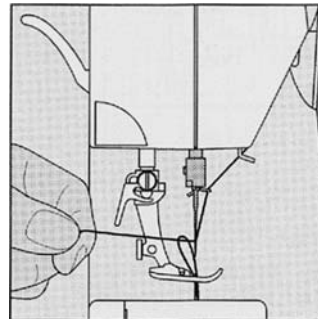
糸切りで糸を切る



ミシンの左側面の糸切り

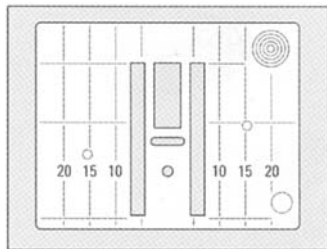
- ・上糸と下糸両方を、前から後ろの方向へ引き、糸切りに掛けます。
- ・そのまま縫い始めると、糸は自動的に外れます。

下糸を引き上げる



- ・上糸を左手で持ったままで、
- ・一針だけ、縫います。
- ・上糸を引くと、下糸が上がってきます。
- ・両方の糸を押え金の溝を通して、横に引き出し、
- ・糸切りで切ります。

針板

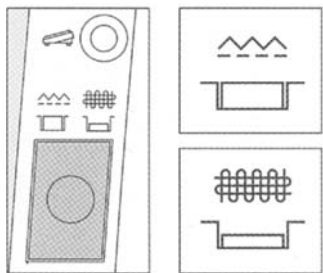


ご注意：針板の交換方法は31ページを参照。

針板のガイドライン

- ・針板の表面にはミリ（mm）表示で布ガイド用の線が刻印されています。
- ・各数字は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
- ・ガイド線は左右対称に刻印されています。
- ・正確な布送りに大変便利です。
- ・水平に刻印されたラインは布地を置く位置の目安として便利です。

送り歯



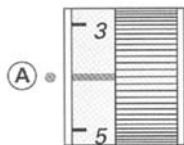
操作ボタンははずみ車の手前下にあります

- ・ボタンが上がっている状態では送り歯は上であり、普通縫い用の設定となっています。
- ・ボタンを押し込むと、送り歯が下がり、縞い縫いや刺しゅう等、フリーハンド縫いの設定となります。

送り歯と縫い目の関係

- ・針が一針縫うたびに送り歯が一回動き、布を送ります。
- ・一針の長さは送り歯の動きにより調節できます。
- ・ボタンホールのように目の詰まったステッチを縫うときには布の動きはごくわずかになります。

上糸テンションの調節



基本縫い

- 図のAの示す赤いマークにセットしておけば、上糸の調節は必要ありません。
- 特殊な縫い方の場合は、布の種類によって、テンションを調節します。

糸調子はスイス・メトラ社製ポリエステル糸100番2本
 挽りを使い、工場ですの状態にセットされています。

特殊な糸を使用する場合には、上糸テンションの調節が
 必要です。また、糸に合った針を選ぶことも大切です。

例

糸の種類	テンション	針
メタリック糸	約 3	130N メタフィル針 80/12番
ナイロン透明糸	2～4	80/12番



バランスの良いステッチテンション



上糸テンションが強すぎる

- 下糸が布表に引っ張られて出てきます。
- ダイアルを3～1に緩めます。



上糸テンションが弱すぎる

- 上糸が布裏側に引き込まれます。
- ダイアルを5～10にセットします。

送りバランス微調整



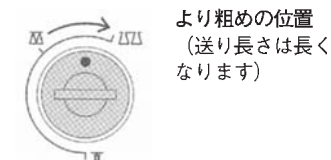
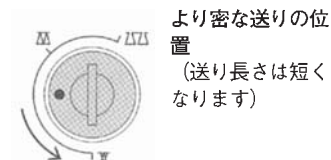
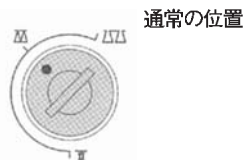
ミシンは工場から出荷される前にスイス・メトラー社製ポリエステル糸100番/2本縫りを使ってテストされ、完全に調整されています。

模様ステッチは、布や糸のタイプ、また安定紙や芯地の組み合わせにより、針目がつまり過ぎたり、粗過ぎたりして、模様が乱れることがあります。

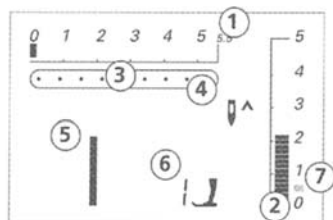
バランス機能を使えば生地やソーイング条件にあったソーイングが可能になります。

用途：
例えばジャージでのネットステッチ、飾り縫い、文字やボタンホールなどの実用縫いに使います。

ご注意：
バランスを調整したあとは、必ずつまみを標準の位置に戻して下さい。



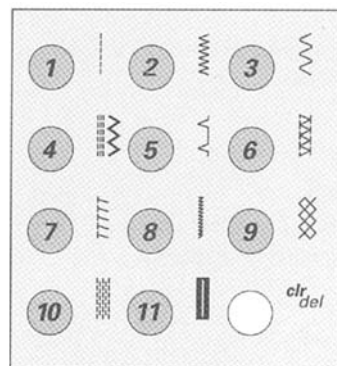
液晶画面



液晶画面を見る

1. 振り幅の標準セットが点滅しています。
2. 送り長さの標準セットが点滅しています。
3. 針基線の表示（9ポジションあります）
4. 針停止位置表示 通常は上で停止します。
5. 模様縫いの番号（左図では1番を表示）
6. 標準の押え金の番号（左図では1番を表示、特殊な縫い方で使う押えの番号は表示されません）
7. サテンステッチ：送りの小さな密度の高いジグザグ縫いのセッティング

ステッチ選択ボタン

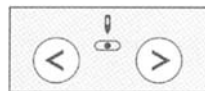


模様を選んでみる

- ・ステッチ番号1-11
 - ・1から11の番号ボタンを押します。
- 標準の送り長さ、振り幅、針基線が液晶画面に表示されます。



- 振り幅を変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると振り幅が変わります。
- ・左ボタン： 振り幅を小さくします。
 - ・右ボタン： 振り幅を大きくします。
 - ・標準の振り幅が点滅で表示されています。



針基線を変えてみる

- ・左ボタン： 針基線が左側に移動します。
- ・右ボタン： 針基線が右側に移動します。



- 送り長さを変えてみる：ボタンを押すたびに、又は押し続けると送り長さが変わります。
- ・左ボタン： 送りの長さを短くします。
 - ・右ボタン： 送りの長さを長くします。
- 標準の送り長さが点滅で表示されています。

各種の機能を使ってみる

機能ボタンを押すと、液晶画面にその機能マークが表示され機能がスタートします。

機能マークを画面から消すと、機能は解除されます。

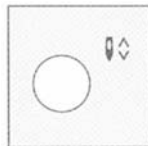


針元返し縫いボタンを使う

ボタンを押している間、ミシンは後進縫いします。

(最大3ミリ)

- ・ボタンホールや繕い縫いのプログラムに使用します。
- ・5番のステッチで縫い終わりを指定します。
- ・ソーイング中に留め縫い機能として使います。手動での留め縫いにも使用します。



針上下停止機能を使う

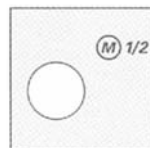
- ・通常針は上で停止します。
- ・ボタンを押すと、画面上で針の右側に表示された矢印の向きが変わります。
- ・下向き矢印：針は常に一番下で止まります。
- ・上向き矢印：針は常に一番上で止まります。

連続返し縫い機能を使う

- ・ボタンを続けて2回すばやく押します。
- ・連続して後進します。
- ・連続返し縫いを止めるには2回続けてすばやく押します。

ご注意：

ボタンを長押しすると、針を下げたり、上げたり出来ます。



1/2スピード機能を使う

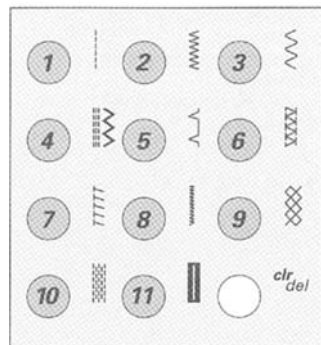
- ・ボタンを押すと画面上に1/2と表示されます。
 - ・ソーイングスピードが1/2に制御されます。
- もう一度押すと解除されます。



クリヤー/削除 (clr/del)

- ・ステッチを標準設定に戻します。
 - ・使っている機能を解除します。
- 例外：
- ・針上下停止機能
 - ・1/2スピード機能

各種のステッチ



1 直線縫い
伸縮性のない生地で、あらゆる直線縫いに

4 トリプル（直線・ジグザグ）ステッチ
厚くて丈夫な生地で、補強縫いに

7 ストレッチオーバーロック
片方が開いたストレッチステッチで、伸縮性に富み、タオル地や特に伸縮性のある生地に

10 自動縫い縫い
薄手から中厚手の生地で、自動的にかがり縫いをする

2 ジグザグステッチ
あらゆる生地で、薄地でのジグザグ縫いや、ゴムひもやレースの縫い付けに

5 まつり縫い
あらゆる生地で、くけ縫いやソフトなジャージ、薄地のシェルタック、飾り縫いに

8 スーパーストレッチステッチ
スーパーストレッチ生地の縫い合わせに

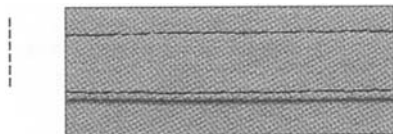
11 ボタンホール縫い
薄手から中厚手の生地で、ブラウス、シャツ、ズボン、寝具等に

3 ランニングステッチ
あらゆる生地で、縫い縫い、パッチの縫い付けや補強縫いに

6 ダブルオーバーロック
あらゆるニット地で、縫うと同時に縁の始末ができる

9 ネットステッチ
ほとんどのインターロック伸縮地、滑らかな生地で、飾り模様やヘム縫いに

直線縫い No.1

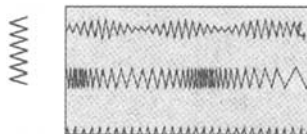


押え：標準押え1番 またはまつり縫い押え5番

直線縫い

- ・あらゆる生地に適応できます。
- ・生地の手元を押え金の手元に沿わせておき、針基線を適当に移動して、最適な縫い代で縫い合わせます。

ジグザグステッチ No.2



押え：標準押え1番

ジグザグステッチ

- ・あらゆる生地に適用できます。
- ・布端のかがりや仕上げに。
- ・飾り縫いに。

サテンステッチ

- ・送りを小さくして、密度の濃いステッチを縫います。
- ・振り幅は必要に応じて調節します。縫いながらの調節も可能です。

布端を仕上げる

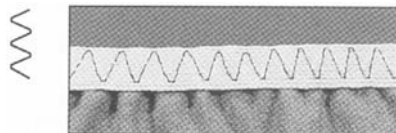
- ・布端を押え金の中央に合わせます。
- ・針が左側で布に、右側で布の外側に落ちるように縫ってゆきます。
- ・布端が巻き込まない程度の振り幅と送りにセットします。
- ・薄地には100-150番位の細い番手の糸を使います。

A：振り幅を変えて縫った例

B：送りを変えて縫った例

C：布端をかがった例

ランニングステッチ No.3



押え：標準押え1番

幅の広いゴムひも

- ・スポーツウエアやランジェリーに

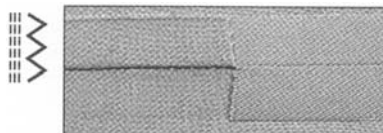
準備

- ・必要な長さにゴムひもをカットします。
- ・縫い付ける生地とゴムひもを4等分して印をつけます。
- ・印を合わせて生地とゴムひもにまち針を打ちます。

縫い方

- ・ゴムひもを生地の長さに合うまで引っぱります。
- ・縫い終わったら、ゴムひもからはみ出た生地を切りそろえます。

トリプルステッチ No.4



押え：標準押え1番

縫い代を開く

- ・デニムやコーデュロイのような固く、しっかりとした生地では縫い代を開きます。
- ・耐久性を求める場所に適しています。

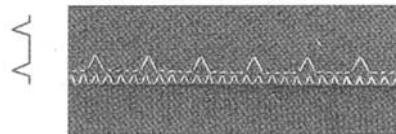
飾り縫い

- ・送りを大きくして飾り縫いに使います。

メモ：

送りを4にセットするのが一番見栄えするステッチになります。

まつり縫い No.5



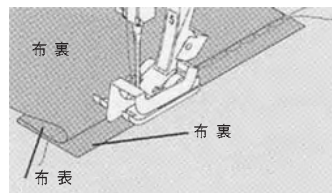
押え：まつり縫い押え5番

まつり縫い

- ・中厚手の木綿、ウールおよび混紡に目立たない縁縫いをするのに最適です。

準備

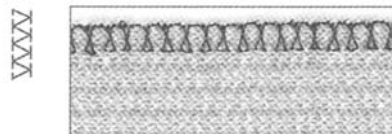
- ・布端を切りそろえ、
- ・手縫い同様にあらかじめ縁かがりをします。
- ・その後、図のように押え金の下に生地を置きます。



縫い方

- ・手縫いの場合同様、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意します。
- ・生地に合わせて振り幅を調整します。
- ・10cmほど縫ったら、生地を表裏をチェックして、必要であれば再度振り幅を調整します。

ダブルオーバーロック No.6



押え：標準押え1番

またはオーバーロック押え2番（オプション）

オーバーロック押え2番は特別にオーバーロック用にデザインされたもので、押えの裏側のピンが布端を巻き込まないように工夫されています。

用途

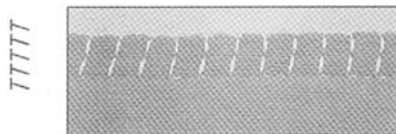
目の粗いニット地やジャージにオーバーロック縫い



縫い方

- ・オーバーロック押え下側のピンの部分に裁ち目を合わせるようにして、進めます。
- ・布端を巻き込まないように縫うには、ピンを布端の外側に合わせます。

ストレッチオーバーロック No.7



押え：標準押え1番

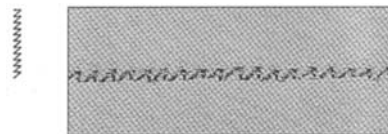
オーバーロック縫い

- ・ 柔らかいニット地や、タオル地の様な粗い生地に適しています。

縫い方

- ・ 布端に沿って縫ってゆきます。
- ・ 糸が布端をロック縫いします。

スーパーストレッチステッチ No.8



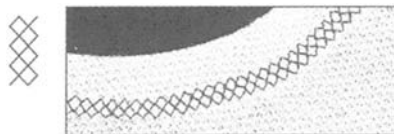
押え：標準押え1番

縫い代を開く

- ・ 非常に伸縮性の強いニット地に。
- ・ スポーツウエアや水着などのレジャーウエアに。
- ・ 縫い目がフラットでスムーズな仕上がりになります。

厚地を縫う時は、布端を巻き込まないように布端から1cmくらい内側を縫って、後で縫い代をカットして下さい。

ネットステッチ No.9



押え：標準押え1番

飾り縫いで襟付け

あらゆる種類のジャージ地（木綿、ウール、化繊および合繊）に適しています。

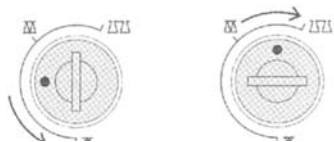
準備

襟周りを1cm内側に折ります。

縫ってみる

- ・表側から襟の端に沿って縫います。
- ・裏側で縫い目からはみ出た縫い代を切り取ります。

送りバランス微調整



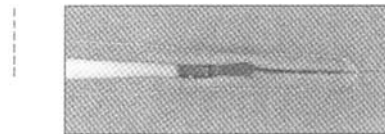
ステッチが広がってしまう場合

ステッチが詰まり過ぎる場合

ご注意：

- ・縫い終わったら、送りバランス微調整つまみを標準の位置に戻すのを忘れないように。

ファスナー付け（直線縫い No.1）



押え：ファスナー押え4番

準備

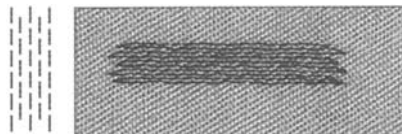
- ・布端が、ファスナーの中心上で合うように、しつけをかけておきます。

縫い方

- ・ファスナーの両側を下から上に向かって縫います。
- ・ファスナーの右側を縫う場合は左基線で、左側を縫う場合は右基線で縫います。
- ・押えの端がファスナーの歯に沿って動き、また針はファスナーのすぐそばに落ちるように縫います。



自動縫い縫い No.10



押え：標準押え1番

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと縫います。

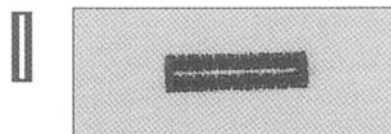
標準押え1番で縫ってみる

- ・針を左上の縫い始めに刺します。
- ・最初の列を適当な長さで縫います。
- ・針元返し縫いボタンを押すと、長さが記憶されます。
- ・続けて縫います。ミシンは自動的に止まります。

大きな部分を縫いたい

- ・順番に縫う場所を押えの下に移動して全体をカバーします。
- ・記憶した長さを取り消すには、クリアボタン (clr/del) を押します。

ボタンホール縫い No.11



押え：ボタンホール押え No. 3

準備

- ・下糸をボビンケースのつのに通します。
- ・縫いたいボタンホールを選びます。
- ・ボタンホールを縫う位置に印をつけます。



試し縫い

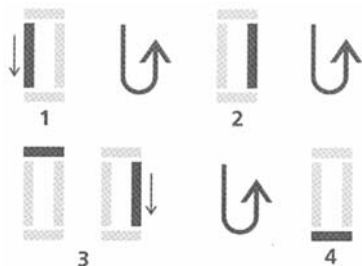
- ・必ず実際に使用する生地と接着芯、又は安定紙を使って試し縫いします。
- ・縫いたいボタンホールを選択します。
- ・実際に縫うときと同じ生地の目の方向に縫います。
- ・ボタンホールを切り開きます。
- ・ボタンを通してみて、必要ならばもう一度試し縫いしてサイズを調整します。

各ステップは、画面に点滅して表示されます。

マニュアル式ボタンホール縫いは、一つだけ特殊なサイズのボタンホールを縫ったり、既存のボタンホールの補修などに便利です。
不要なステップを飛ばしたり、同じステップを繰り返すことも可能です。
マニュアル式で縫ったボタンホールは記憶させることはできません。

ボタンホールを縫う

左右両方の穴かがりを同じ方向に縫います



1. 最初の穴かがりを縫い、適当な長さでミシンを止め、針元リバースボタンを押します。
2. 右側の穴かがりを後進で縫い進みます。最初の位置でミシンを止め、針元返し縫いボタンを押します。
3. 上の環止めを縫い、右側の穴かがりを縫います。ミシンを止めて針元リバースボタンを押します。
4. 自動的に留め縫いをして止まります。

ボタンホールの調整方法

穴かがりの幅を変えるには、

- ・ 振り幅を調節して下さい。

縫い目の送り長さを変える

- ・ 送りの長さの変更は常に左右の穴かがりの縫い目の長さに影響します。(密、粗、いずれの場合でも)
- ・ 送り長さを調節した後、再度試し縫いしてボタンホールを記憶させて下さい。

送りバランスの微調整

ボタンホールでは両側を同一方向に縫いますので、バランスを調整すると、両側の穴かがりを均等に変更します。

ご注意：

ボタンホール縫いが終わったら、バランス調節つまみを必ず標準の位置に戻して下さい。

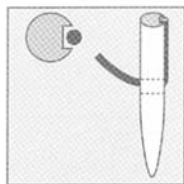
ミシン針に関する重要事項

ミシン、針そして糸

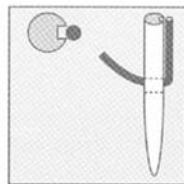
ベルナミシンは130/705Hというタイプの家庭用ミシン針を使用します。

針と糸

市販されているミシン針は、たいてい70番(8番)～120番(18番)です。針が細いほど、番号も小さくなります。右の表は、どの糸にはどの針が最適かを示しています。針は、必ず糸に合ったものを選びましょう。不測のトラブルを避けるため、ベルナ純正針のご使用をお勧めします。



縫うとき、糸は、針の溝に納まらなければなりません。



糸に対して針が細すぎると、糸は溝に納まらず、縫い目が乱れます。

針と布

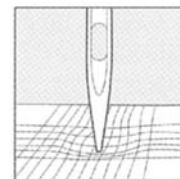
針は必ず正常な状態にあるものを使用して下さい。

次のような針をご使用になりますと、縫い目を乱す原因となります。

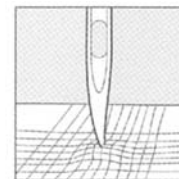
針(欧米式) (日本式)	70 10	80 12	90 14	100 16	110～120 18～20
繕い縫い用糸	○	○			
刺しゅう糸		○			
木綿糸		○	○		
化繊糸		○	○		
太糸、化繊糸			○	○	
ボタンホール 飾り縫い糸				○	○



曲がった針









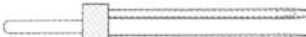
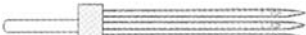
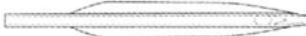
先が欠けた針



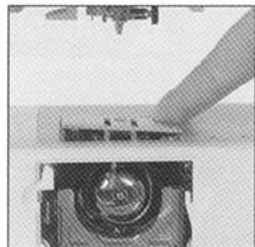
先がつぶれた針

30 針と糸について

布地に合わせて、針を使い分けることにより、大変縫いやすくなります。
ベルニナでは、様々な針を用途に合わせて取りそろえております。

針一覧表	針の記号	針先形状	実際の形状	用 途
標準針	130/705H	標準の針先		汎用針、化繊や天然繊維の織地、 例えば、リネン、シフォン、オーガンジー、 ウール、ベルベットなど
	130/705H-SES	中細ボールポイント		絹、化繊、綿、薄地のウール地、薄手のニット地
	130/705H-SUK	中太ボールポイント		化繊や天然繊維の厚手のニット地
特殊針	130/705H-S	中太ボールポイント		特殊な伸縮地用
	130/705H-J	極細先		綾織、作業衣、麻、デニム、キャンバス地 目のつんだ生地のみ。
	130/705H-LR + H-LL	カッティングポイント		各種天然皮革、合成皮革、ビニール、 コーティング地、プラスチック
二本針	130/705H-DO	針間隔 (ミリ) 1.6/2.0/2.5/3.0/4.0		伸縮地のヘム縫い、ピントック、飾り縫い、 キルティング
三本針	130/705HTRI	巾2.5/3.0ミリ		飾り縫い、キルティング
ウイング針	130/705H	巾2.0ミリ		綿ローンや綿オーガンジー等の織りのゆるい 薄地でヘム縫いやレース付け

クリーニングの方法

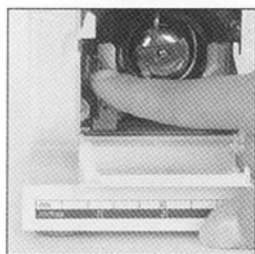


ミシンを極端に気温の低い部屋に置いている場合、使用の1時間位前から通常の気温の部屋に移しておいて下さい。

クリーニング

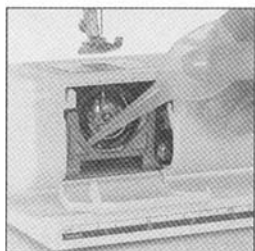
ご使用后、針板の下にたまった糸の毛羽やくずを掃除してください。

- ・電源をオフにし、押えと針を外して、開閉カバーを開きます。
- ・針板の右後ろ隅を人差し指で強く押さえて針板を浮かせます。
- ・持ち上げて外します。
- ・ブラシで掃除し、針板を元に戻します。



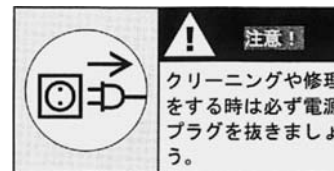
かまの掃除

- ・電源をオフにし、ボビンケースを取り出し、中釜ストップレバーを左側に押します。
- ・中釜押えカバーといっしょに黒い樹脂の中釜押えを手前に倒します。
- ・中釜を取り出します。
- ・大釜レース（溝）の回りをブラシや布で掃除します。その際、尖ったものを使用しないこと。
- ・中釜を戻し、中釜押えと押えカバーが確実にストップバーにはまるように閉じます。
- ・中釜が正しくセットされたかどうか、はずみ車を手で回してチェックします。ボビンケースを戻します。



液晶画面の掃除

濡れたソフトクロスで拭きます



注油について

- ・釜の掃除をされる度に純度の高いミシンオイル1～2滴を釜の周辺に注油されることをお勧めします。
- ・注油後は生地に油シミのつく可能性がありますので、はぎれで試し縫いしましょう。

重要:

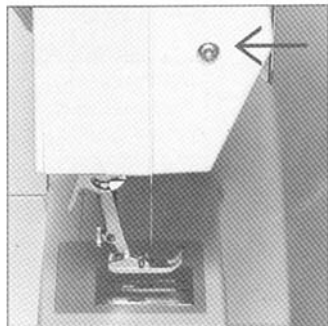
絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事



重要:

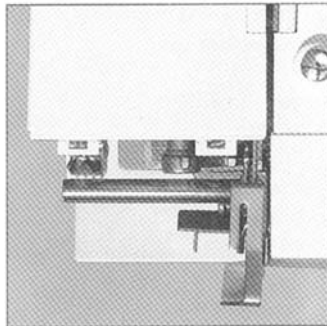
「安全にご使用いただくために」をよく読んで作業して下さい。

ソーイングライト

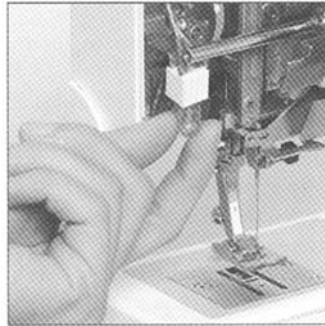


電球の交換

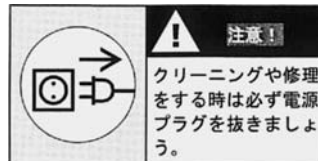
- 電源をオフにしてから、
- ←の部分のネジを緩めます。



- カバーを少し持ち上げるようにして上から外します。



- 電球を新しいものと交換します。
- カバーを戻し、ネジをしめます。



電球は、ベルニナ純正の
12V 5W W2.1x9.5d のものを
使用して下さい。

使用直後の電球は大変熱くなっています。冷めてから電球を交換してください。



「安全にご使用いただくために」をお読み下さい。

トラブルの原因と対策

チェックポイント

- ・上糸、下糸が正しくかかっていますか。
- ・針が正しく取り付けられていますか。(平らな部分を後ろ側にします。)
- ・針は、針と糸の一覧表を見て、正しいものを使用して下さい。
- ・ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。外がまの掃除も忘れずに。
- ・ボビンケースの糸みち(バネの下)のごみを取り除いて下さい。

上糸切れの原因

- ・上糸テンションが強すぎる。
- ・針は純正をお使いですか？
- ・針が正しく平らな方を後ろ側にセットされていますか？
- ・針先がつぶれていたり、または曲がっていたりしませんか？
- ・糸の品質が良くない。(こぶがある、ささくれている、古くて乾燥しすぎている等)
- ・針板の針穴や中金の剣先に傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。

下糸切れの原因

- ・下糸テンションが強すぎる。
- ・ボビンケースの中で、糸がからまってないか、ボビンを取り出し、チェックして下さい。
- ・針板の針穴に傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。
- ・針先がつぶれている、または曲がっている。

故障かな、と思ったら次の要領でまずお調べ下さい。

目飛びの原因

- ・針が正しくない。(130/70 5Hの家庭用ミシン針を使用して下さい。)
- ・針先がつぶれているか、曲がっている、または正しくセットされていない。(針は止まるまで差し込んで止めて下さい。)
- ・布地に合った針を使っていない。(24頁の表を参照して、適当な針を選んで下さい。)

針折れの原因

- ・針の止めネジの締め方が十分でない。
- ・縫い終わった後、布を手前へ引いてしまった。
- ・厚地を縫っていて、針が布地に刺さっている状態で布を押ししてしまった。
- ・質の悪い糸を使っていた。(糸よりが均一でない、こぶがある等。)

縫い目が乱れる原因

- ・上糸調節皿に糸くずが残っている。
- ・ボビンケースのテンションばねの内側に、糸くずが残っている。
- ・下糸をボビンケースのつの穴に通したままになっている。
- ・押え金に糸がからまっている。
- ・糸かけが正しくない。(上糸と下糸をチェックして下さい。)
- ・糸こまカバーは糸こまのサイズに合っていますか？

ミシンが回転しないか、高速にならない原因

- ・下糸巻き装置がオンになっている。
- ・電源コンセントが正しく入っていない。
- ・電源スイッチがオフになっている。
- ・室温が低すぎミシンが冷え切って十分に機能しない。

索引

ア		押えの交換	13	ソーイングレンズ	9
アクセサリ	6	オーバーロック押え	7	タ	
アクセサリポーチ	6	カ		ダイヤルテンション	5
アクセサリボックス	8	各部の名称	4,5	ダブルオーバーロック	21,24
アタッチメント取り付け用ねじ穴	5	釜カバー	5	ダーニング用押え	7
イ		キ		チ	
糸	29	キャリングハンドル	5	直線縫い	21,22
糸切り	5,15	ク		注油	31
糸こまをセットする	14	クリーニングの方法	31	テ	
糸立て棒（水平）	5	クリヤーボタン(clr/del)	20	手元スタート・ストップ装置	9
ウ		シ		電源コード	6
上糸案内	5	ジグザグステッチ	21,22	電源スイッチ	5,6
上糸テンションの調節	17	下糸切り	10,11	電源プラグ差し込み	5
上糸のかけ方	14	下糸を巻く	10	天びん安全カバー	5
糸通し機	15	下糸を引き上げる	15	ト	
エ		自動下糸巻き装置	5	トラブルの原因と対策	33
液晶画面	5,19	自動縫い縫い	21,27	トリプルステッチ	21,23
エッジガイド押え	7	ス		トリプルジグザグステッチ	21
オ		垂直糸立て棒	5,13	ネ	
送り	19	スーパーストレッチステッチ	21,25	ネットステッチ	21,26
送り調節ボタン	5	ストレッチオーバーロック	21,25	ハ	
送り長さ	19	スピード1/2	5,20	はずみ車	5
送り歯	16	セ		パッチワーク押え	7
送り歯ドロップ操作ボタン	5	前面糸掛け	5	針	29,30
送りバランス微調整	18,26,28	ソ		針板	5,16
送りバランス微調節つまみ	5	ソーイングライト	32	針基線	19
押え上げレバー	5	ソーイングテーブル	8	針基線選択ボタン	5
押え金	7			針上下停止機能	20

針の交換	12		
針元返し縫いボタン	5,20	レ	
針停止位置選択ボタン	5	連続返し縫い	20
針止め	5		
ヒ			
標準押え	7		
フ			
ファスナー押え	7,26		
ファスナー付け	26		
フットコントローラー	6		
フットコントローラー用コンセント	5		
振り巾調節ボタン	5,19		
ホ			
ボタンホール	27,28		
ボタンホール押え	7		
ボビン	6,12		
ボビンケース	11		
マ			
まつり縫い	21,24		
まつり縫い押え	7,24		
ミ			
ミシン針	29,30		
モ			
模様選択ボタン	5		
ラ			
ラフラー	7		
ランニングステッチ	21,23		

安全にご使用いただくために	2
各部の名称	4
標準アクセサリ	6
押え金の種類	7
別売りオプションアクセサリ	8
ミシンを準備する	10
ミシンの基本操作	18
各種のステッチ	21
縫ってみる	22
針と糸について	29
日常の点検保守	31
困ったときに	33
索引	34